

編集後記

第3号の特集は「運動分析」である。したがって内容も多岐に亘る。

まず、武智氏の「工学的手法」である。これまで数多くの「M」と「E」の話し合いの機会が持たれてきたが、お互いに話している事が相手に通じない事が多く、すれ違いどころか遠方より異なった宇宙人同士がなんとか意志を通じさせようと、通じない言葉で話し合っているような感じがあった。またMの立場の人がEに精通しようとするれば、必要性が種種雑多であるため全てにわたってカバーしきれぬものでもなく、逆にEの立場からすれば人間の構造、機能ともブラックボックスが多すぎるため苦勞される事も多いと思う。氏はこれらの点をMの立場から地味な努力で少しずつ解決されており、先達としての忠告もあり、教えられる事が多い。

窪田氏の歩行分析に関する論文はデータ処理と評価の項がユニークである。氏とお話

しする機会が時々あるが、難しい事も実によく理解しておられ、その勉強には頭の下がる思いがする。

菅原氏の脳性麻痺児上肢の運動分析は氏のライフワークとも言えるEMGを用いた脳性麻痺に関する研究の一環であろう。

佐野氏の論文も3年にわたって研究されたもので、非麻痺側の訓練の重要性を結論に述べられ、当誌にふさわしい立派な論文である。

鎌倉氏の片麻痺上肢の運動分析は優れた総論で、氏のこの方面での実績の裏づけがあってはじめて可能な事だろう。

その他、土屋氏のSICOT印象記では、日本人学者の活躍が目立った事として述べられており、リハビリテーション医学会関連学会として、大変喜ばしい事と言える。

(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 榮 夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
福 井 圀 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 歆
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第7巻第4号)

特 集 熱傷のリハビリテーション

わが国の熱傷の現況……………	京都第一赤十字病院	大 矢 英 次 郎
熱傷の初期治療……………	順天堂大学	穴 沢 雄 作
熱傷の形成外科的治療……………	東京医科大学	牧 野 惟 男
熱傷のリハビリテーションプログラム……………	慶応大学病院	千 野 直 一
電撃傷のリハビリテーション (特に四肢切断について) ……………	九州労災病院	吉 村 理・他
広汎な mesh skin graft を伴った熱傷下腿切断の義肢 装着例……………	水島中央病院	安 田 舜 一・他
義足装着が困難であった熱傷による足部切断の一例 ……………	川崎医大	土 肥 信 之・他
熱傷患者の作業療法 (スプリントに工夫を加えた2症例) ……………	横浜市大	関 谷 修・他
講 座 リハビリテーション医のための循環器入門 (4) (高血圧性疾患)……………	埼玉医大	土 肥 豊
リハビリテーションにおける治療 (4) (脳性麻痺児の食事訓練)……………	高知子鹿園	江 口 寿 榮 夫・他